TACHIBANA INTERNATIONAL
Address BLK11 LEEDON HEIGHTS #05-32
D'LEEDON SINGAPORE 267955

2020 年 10 月 19 日

株式会社立花商店　生田　渉

（新）週刊カカオニュース 24 号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

1.　第３四半期の各地域のカカオ豆磨砕数量のまとめ(10/16)

今週、2020 年の第３四半期（2020 年 7-9 月）の世界各地域のカカオ豆の磨砕数量の発表がありました。カカオ豆の磨砕数量は世界のカカオ関連商品の需要を示す先行指標として業界では重要な統計と位置付けられています。各地域の概要は下記の通りです。

◆アジア　前年対比 10%減

7-9 月のアジア域内でのカカオ豆の磨砕数量は前年対比で 10%減少の、202,665 トン。前年は 225,356 トンだった。4-6 月の第 2 四半期は、202,674 トンであり、7-9 月の磨砕数量自体は前の 3 か月間とほぼ同じ数量だった。

◆北米　前年対比で 4%減

ワシントンに本拠を置く全米菓子協会は　2020 年 7－9 月の北米でのカカオ豆磨砕数量は、前年の 123,208 トンから 4%減少し、118,260 トンだったと発表した。この数字は、2008 年以来の第 3 四半期の最低水準。また、事前の調査段階では、アナリストは 5%減少を予想しており、予測を予測よりは良い数字となった。

ただ、北米の市場の磨砕数量を見るときには、既にこの数年間でコロナの影響を受ける前から、カカオ豆を北米内まで輸入して域内で加工するよりも、カカオ原産国のアフリカや南米でカカオマスやココアバター、ココアパウダー等の加工された状態でので輸入が増加したこともあり、磨砕数量が落ち込んでいたという傾向がある為、域内の磨砕数量の減少＝域内の需要の減退と直線的に結び付けられないところもある。

≪北米市場の前年、今年のカカオ磨砕数量≫

•	3Q	2Q	1Q	4Q	3Q
年度	2020	2020	2020	2019	2019
カカオ磨砕数量（トン）	118,260	110,776	115,591	110,321	123,208
前年対比（トン）	-4,948	-13,274	-6,210	-6,901	-5,286
前年対比（%）	-4.02%	-10.70%	-5.10%	-5.89%	-4.11%
対象の工場数	17	18	17	17	17

出典：全米菓子協会

◆欧州　前年対比 4.7%減少

第 3 四半期の欧州ココア協会発表によると、第 3 四半期のカカオ豆粉砕量は前年比 4.7%減の 345,730 トンとなった。各年の第 3 四半期の数字の比較では、2016 年以来一番低い値。アナリスト、トレーダー、ブローカーなどの事前調査では 5%の低下と予測されていた。尚、第 2 四半期の粉砕量は合計 314,108 トンであり、4－6 月よりは増加した。ドイツ製菓産業協会（BDSI）によると、ドイツ国内の磨砕数量は、3 四半期に前年比 9.7%減の 93,355 トンになりました。

2.　アジアカカオ協会のオンラインイベント報告（10/16）

10 月 16 日にアジアカカオ協会（CAA…COCOA ASSOCIATION OF ASIA ）主催のオンラインセミナーが行われました。登壇者は、Olam や Cargill 等の磨砕業者、Ｔｕｔｏｎ（カカオ商社)、や Robo Bnak 等の金融機関＆アナリストで、その内容として、下記のような点が語られていましたのでご報告いたします。

・北米、欧州、アジア合計の第３四半期の磨砕数量は前年対比で約 6%の減少だが、第２四半期は前年対比で 8%以上の減少であったことからすると、7-9 月は工場の停止などがなく完全に稼働し、需要の減少幅も少なくなっている・

・アジア域内で言えば、19/20 年の磨砕数量が非常に高く、前年対比 10%の伸びを見せていた。よって、コロナで需要が減っているかのように見える数字であるが、第３四半期の磨砕数量は 2018 年度比較では、2020 年の方が 4 万トンも多いという事実がある。

・供給側は、西アフリカの主要産地の供給が順調の見込み。不安要素は、大統領選挙とラニーニャであるが、現状、明らかなリスク要因とは言えない。

・更に長期的な需給バランスでは、アフリカでの供給の伸びはこれ以上増やすのは難しく、アジアも現実的には期待できない。この数年の実績から言えば、南米が期待できる追加余剰の供給地であり、国で言えば①エクアドル、②ペルー、③コロンビア、④ブラジルなどに期待できる。**現在ガーナと中南米全体の供給数量がほぼ同じが逆転されてきている状態。近年南米の生産数量の増加は目立っていて、特にエクアドル、ペルーが伸びている。**

・チョコレートの消費トレンドとしては、①健康志向の＋α、②ムメイドクッキング、③サステナビリティといったカテゴリーが伸びている。カフェ、レストラン向けのチョコレートの回復には時間がかかる。一方で袋詰めされた大袋商品、手作り用原料の需要は引き続き高い傾向がある。

・2020-2021 の需給バランスは、供給過剰であるとする見方がほぼ正しい感じがするが、どの程度の余剰が出るかが問題であり、業界では 5 万～30 万トンまで予測はバラバラだが、登壇者の ROBO BANK のアナリストによ 15 万トンの余剰という試算。

3. コートジボワールの 10 月 5-11 日の週のココアの到着数量は 10 万 5960 トン(10/12)

政府筋の統計資料に詳しい人物によると、コートジボワールの農家は、先週、10 万 5960 トンのココアを港湾倉庫に送り込んだと報告された。1 年前の同じ週との比較では、前年は推定 9 万 7457 トンであり、昨年より多い数字。政府のデータによると、今年のシーズンが 10 月 1 日から始まってからの総到着数は現在まで 11 万 3406 万トンで昨年は 13 万 2197 トン。

下記の数量は、コートジボアール内で、オラムインターナショナルとカーギルのユニットなど世界大手カカオ磨砕業者であり、最大の買い手の企業群の上社の 6 社の購入数量を示したものである。期間は 10 月 1 日から 11 日で購入数量の単位はトン。

会社名	購入数量(t)
カーギル	18,195
アウトスパン(Olam)	13,150
Saco 社	11,874
Touton 社	8,568
S3C 社	7,314
その他企業	54,305
合計	113,406

4. バリーカレボー社がエクアドルのドゥランに新たなカカオ施設の建設を開始（10/12）

バリーカレボー社（スイス）は、エクアドルのドゥランに新たなカカオ施設の建設を開始した。この施設では、後に米国、カナダ、アジア、ヨーロッパのバリーカレボー社のチョコレート工場に輸出されるエクアドル産カカオ豆の乾燥、洗浄、保管が行われる。施設内には 40 人以上のエクアドル人従業員を雇用するオフィスも設けている。

同社は、プロジェクトに多額の投資を行い、カカオの生産が急成長しているエクアドルのバリューチェーンをさらに発展させることを指摘した。

同社のエクアドルのマネージングディレクターである Angela Gubser 氏は次のように述べている。「この最先端のインフラにより、エクアドルと同国カカオ生産サイドに長期的な取組みを行うことができる。我々は新しい施設に移転し、既存および新規のパートナーとのビジネス関係をさらに発展させ、エクアドルのカカオ生産者との持続可能性プログラムを強化することを楽しみにしている。」

同社は 1996 年からエクアドルからココアを調達しており、カルマミルクエクアドル、カレボーオリジンエクアドル、カカオバリーエクアドルなどの幅広い製品の生産に使用している。

5. ファンド勢のロンドンカカオ先物の買い越しが 6 週間ぶりの低水準へ（10/17）

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋（Managed Money）が今週、純買いポジションを 12,104 ロットと大きく減らして、純買い越し残ポジションが 6 週間ぶりの低水準となる 14,173 ロットとなったことが ICE 欧州先物取引所が発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで（今週で言えば）10 月 13 日までの取引が含まれている。

- 純買いポジションの数量は過去 6 週で最も弱気（最も少ない）
- 買いポジションの総量は 10 月 13 日までで前週より 8,607 ロット減少して、21,623 ロットとなった。買いポジションの総数量でも、過去 6 週で最も低い水準になった。
- 売りポジションの総量は 10 月 13 日までで、前週より 3,497 ロット増加して、7,450 ロットとなった。売りポジションの総量は過去 5 週で一番高い水準。

6. ＮＹ市場のファンド勢も買い越しポジションは 2 か月ぶりの低水準に（10/17）

ニューヨークカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋(Managed Money)の買い越しポジションが 2 か月依頼ぶりの低水準になっており、純買いポジション（＝Net long position ）が減少してきている。今週 10,439 ロット減少して、19,216 ロットになった。

- 買いポジションの総量は 10 月 13 日までで前週より 10,031 ロット減少して、45,698 ロットとなった。買いポジションの総量の少なさは、2 か月以上ぶりの低水準。
- 売りポジションの総量は 10 月 13 日までで前週より 408 ロット増加して、26,482 ロットとなった。売りポジションの総量は過去 3 週間で一番高い水準にきている。

7. 新商品 Pick Up：『エクアドルスペシャル』チョコを使ったファミマのデザート各種(10/12)

久しぶりにカカオの産地を大きく特徴にした商品がありましたので、ご紹介いたします。
コンセプトとは、Bean to Bar 製法を使用した「エクアドルスペシャル」というチョコを開発し、それをスィーツの原料として使っているとのこと。それぞれの商品で使用中のチョコの中でのエクアドルスペシャルの使用比率は 20-30%前後使用している。ガトーショコラで有名なケンズカフェ東京の氏家シェフ監修。

*上記情報はすべて、下記の公式プレスリリース
https://www.family.co.jp/company/news_releases/2020/20201012_02.html

８、【御礼及びご報告】立花商店主催：ガーナのカカオ農園生中継

10 月 9 日の金曜日にガーナの農園の様子を現地から生中継するというイベントを開催させて頂きました。緊急企画で告知から間もない開催だったにも関わらず、予想を超える多くの方からのご視聴を頂き本当にありがとうございました。視聴者の皆様からは、楽しかった！とたくさんのコメントを頂戴し大変有難く感謝しております。初めての開催で不慣れな部分もあり御見苦しい場面もありましたが、ガーナならではのトラブルも温かく、今後も、引き続き楽しんで見守っていただけますと幸いです。

今後も現地からの活きた情報と楽しいコンテンツをお届けしたいと思います。ご意見などございましたらお気軽にお申し付けください。

尚、先週金曜日の YouTube Live については下記リンクよりいつでもご覧いただけます。お時間が合わず見逃された方や、改めてご視聴いただける方がいらっしゃいましたら、下記のリンクよりいつでもご連頂けます。

https://youtu.be/F5R5hPWW0XQ

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については,下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社　立花商店　生田　w-ikuta@tachibana-grp.co.jp